

令和6年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 長生村	団体区分（混成の場合は複数☑） <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名 組織で挑む下水道広報 ～マンホールカードの沼へようこそ！～	
責任者（実際に広報に取り組んだチームの代表者） 氏 名：野口 佳孝 所 属：長生村役場 下水環境課 電 話：0475-32-2494 E-mail： cho-gesui@vill.chosei.lg.jp	
担当チームの構成 （外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい） 企画・実施：村職員（下水環境課下水道係2名）	
取組のポイント （一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい） ○昨年のイベントや、アンケート結果等の意見を踏まえて、マンホールラバーコースターの販売を開始した。 ○職員の意識付けのため「長生村職員総出で、マンホールカードを何枚集められるのか？」企画を令和6年4月より始動。また、収集結果を9月の下水道の日や、11月の村最大のイベントである「ながいきフェスタ」にて展示することで一般の人に下水道を身近に感じてもらえることを目的とした。（実質7か月での収集活動） ○「ながいきフェスタ」では、実物の「マンホール蓋を開けてみよう！」企画を実施し、多くの来場者に楽しんでもらいつつ体験してもらった。 ○長生村は埼玉県上里町と「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結しており、上里町の展示蓋を貸与し、「ながいきフェスタ」で長生村のカラーマンホールと併せて展示することで広く周知に努めた。	
アピールポイント ○準グランプリを獲得したことで満足することなく、意見を取り込みつつさらなる広報活動を進めている。 ○人材不足・予算の削減に向き合いながら、下水道広報を考えた末、マンホールカードに目を付けた。 ○マンホールカード全種類の25%（269枚/1,076枚）を目標に、職員によるカード収集企画を実施した。また、住民にも周知するため下水環境課窓口リアルタイムでの収集状況を掲示・更新した。希望者が収集したカードを見られるようファイリングし、村のイベント「ながいきフェスタ」では県内のカードをマップと一緒に展示を行い、マンホールカードの魅力を来場者に広く周知した。 ○職員が企画のため、カードを収集する中で、自らマンホールカードに興味を持ち収集する職員が増えた。 ○企画から掲示・広報活動までを担当職員2名で行い、職員の数少ない中取り組んだ。	
要したコスト 【総額】 249,200円 （内訳）①マンホールラバー製コースター（300枚）：138,600円②マンホールカード（4,000枚）：99,000円 ③マンホールカードのぼり旗（1本）：6,600円 ④展示用雑費一式：5,000円	

取組の概要（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

準グランプリ獲得による燃え尽き症候群からの脱却！

令和5年度で、GKP 広報大賞の準グランプリを獲得したことで満足することなく、次なる挑戦に向けて、昨年の担当者2名が人事異動がなかったことで、昨年度に比べ少ない予算の中で何が出来るか模索していった。

下水道をもっと身近に感じてもらうため、職員の意識付けから取り組む！

昨年準グランプリを獲得したことは職員間でも話題となったが、所属課以外ではあまり実感がわいていないことも感じていた。各課が主催の会議では紙製マンホールコースターの使用を積極的に推し進め、また、全職員を巻き込んだ企画として「長生村職員総出で、マンホールカードを何枚集められるのか？」企画を実施した。企画の内容は庁内ネットワークの掲示板にて周知し、収集状況を皆が見られるデータベース及び下水環境課前にて一覧で掲示・更新することにより、旅先で集められるところが無いか？と度々確認いただける職員もおり、定期的にマンホールカードのことを意識してもらえるように努めた。

令和6年度の集大成「ながいきフェスタ」での展示にかける！

11月9日開催の村最大のイベント「ながいきフェスタ」へ「出張！下水環境課」ブースとして出店。

①「職員総出で、マンホールカードを何枚集められるのか？」企画で集めたカードの収集状況の公表。（希望者はファイリングした実カードの閲覧も可）②千葉県内のマンホールカード31枚の実物展示及び配布場所マップの掲示。③「マンホール蓋を開けてみよう！」体験コーナー。④顔出しパネル撮影コーナー。⑤長生村唯一のカラーマンホールの出張展示及びマンホールカード・紙製コースターの配布。⑥マンホールラバーコースター販売⑦長生村と災害協定を結んでいる埼玉県上里町のマンホールの展示。など、様々なコーナーを設け、ブースに来た方々に楽しんでもらいつつ、もっと下水道を身近に感じていただけるよう努めた。



イベントでは多くの方にマンホールカードの展示をご覧いただきました。



マンホール蓋を開けてみよう！体験コーナーの様子



借用した埼玉県上里町のマンホール及び、長生村唯一のカラーマンホールの出張展示の様子。

成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

○マンホールラバーコースターの販売を7月下旬から開始し、11月末現在 **119枚の売上**があった。中には、村内事業者の方がお店で使用するため購入したという方もおり、下水道の広報に一役買っている。

○当初、目標とした **269枚（全体の25%）** を優に超える **334枚（全体の31.0%）（11月末現在）** を取得した。これには、**36名の職員**が協力してくれ、中には自分で個人的に集め始めるという職員もいた。

○村イベント「ながいきフェスタ」の職員が集めたマンホールカードの展示には、多くの来場者が足を止め、個人の収集家の方はもちろん、初めて見て種類の多さに驚愕される方、カードに描かれたキャラクターを見て〇〇行こうよ！という方等、多くの反応をいただき、下水道を身近に感じていただける場となった。同時に村のマンホールカードの配布も行うことで、カード集めの第一歩として大変好評いただいた。

○同イベントでの「マンホール蓋を開けてみよう！」体験コーナーでは、子ども達を中心に **122名の参加者**が集まった。参加者は初めて開ける蓋の重さに驚いたり、また、開けた時のサプライズに笑ったりと、楽しんでもらいつつ、職員からの解説等も踏まえ、下水道施設の大事さをアピールできる場となった。

○同イベントでの埼玉県上里町のマンホール蓋の展示では、「なぜ上里町なのか？」という来場者からの質問が多数あり、**上里町と災害協定を結んでいる事を広く周知**できた。同時に、村に1か所しかないカラーマンホールの出張展示を行ったことで、写真を撮られる方も多く、マンホールデザインの多彩さを周知できた。